



図1. 神奈川県産ヨツモンカメノコハムシ.

集; lex., 22. IV. 2017, 山田採集; lex., 27. IV. 2017, 加藤採集; lex., 8. V. 2017, 山田採集; 2exs., 11. V. 2017, 加藤採集; 4exs., 神奈川県厚木市船子, 23. V. 2017, 重藤採集; 2exs., 2. VII. 2017, 重藤採集 (筆者保管).

いずれの個体も、ヒルガオ科植物の葉上で、ルッキングとスウィーピングによって得られた。今回の報告により、本種の分布の北限が更新され、今後の分布拡大に注目したい。

末筆ながら、貴重な標本を提供して下さった東京農業大学昆虫学研究室の城所葉月、山田昌美、加藤優羽の各氏、また、原稿を校閲して頂いた東京農業大学の小島弘昭教授に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 東海大学出版.
- 今坂正一・海老原円, 1997. 奄美大島で採集した昆虫類. *Korasana*, (64): 1-41.
- 今坂正一・祝 輝男, 2007. 喜界島で2007年に採集した甲虫. *Satsuma*, (137): 119-129.
- 小川泰弘, 2003. 長崎県におけるヨツモンカメノコハムシの侵入とサツマイモへの加害. *今月の農業*, (47): 26-30.
- 久保田義則, 2008. 屋久島におけるヨツモンカメノコハムシの採集と生息状況調査. *Satsuma*, (140): 243-246.
- 宮崎県病害虫防除・肥料検査センター, 2008. 平成20年度病害虫発生予察特殊報第1号.
- 清水 稔, 2010. 熊本市で採集されたヨツモンカメノコハムシ. *熊本博物館館報*, (23): 83.
- 瀬島翔馬, 2011. 福岡市におけるヨツモンカメノコハムシの記録. *Pulex*, 日本昆虫学会九州支部会報, (90): 576-577.
- 山口県農林総合技術センター農業技術部資源循環研究室, 2016. 平成28年度病害虫発生予察特殊報第1号.
- 山元宣征, 2000. ヨツモンカメノコハムシの長崎県からの記録. *月刊むし*, (356): 45-46.
- 佐野信雄, 2014. 四国南西部におけるヨツモンカメノコハムシについて. *へりぐろ*, (35): 59-63.
- 越智あずさ・吉富博之, 2016. 四国に分布拡大したヨツモンカメノコハムシ. *さやばねニューシリーズ*, (21): 53-56.
- 酒井孝明・倉田章久・石川 均, 2008. 本州に侵入したヨツモンカメノコハムシ. *月刊むし*, (451): 15-16.
- 竹内浩二・嶋田竜太郎・沼田洋子・沼沢健一・嶋田 綾, 2012. [大島特産園芸作物における生産進行技術対策] ヨツモンカメノコハムシの発生と被害状況および防除対策. 東京都農林総合研究センター平成24年度成果情報一覧. URL http://www.tokyo-aff.or.jp/center/kenkyuseika/08/pdf/h24/26_1.pdf (2017年10月5日アクセス)

(重藤裕彬 243-0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)

【短報】長野県安曇野市でツヤキカワムシを採集

ツヤキカワムシ *Boros schneideri* Panzer はツヤキカワムシ科ツヤキカワムシ属の1種である。我が国における本種の分布状況は河野 (1938) によって初めて北海道で認められて以降、長らく北海道のみより知られていたが、平山 (2005) によって栃木県日光市湯本 (標高1,500 m) から採集され、本州にも分布することがわかった。今回、筆者は長野県安曇野市の黒沢ダム付近の植林地で本種を採集したので、本州における追加記録として報告する。



図1. ツヤキカワムシ *Boros schneideri* Panzer.

lex., 長野県安曇野市三郷小倉黒沢ダム付近 (標高850 m), 23. IV. 2016, 筆者採集・保管 (図1).

黒沢ダムへ至る林道にて、道の脇に乱雑に置かれたカラマツと思われる伐倒木を調べていたところ、樹皮上を見慣れぬ甲虫が歩行していたので、持ち帰って調



図2. 長野県安曇野市三郷小倉黒沢ダム付近.

べたところ本種であった。平山 (2005) による栃木県日光市の記録個体は、カラマツの新しい立ち枯れから得られ、今回筆者が見つけた伐倒木も、最近まで立ち枯れていたものと思われた (図2)。また、今回本種が得られたのは4月下旬と早い時期であり、標高850mのスギやカラマツの植林地であったことを考えると、これまで十分な調査が行われず、本州からの記録が遅れたことは想像に難くない。

今後、亜高山帯の天然針葉樹林のみならず、初夏における山地帯や里山の植林地などの調査によって、各地からさらなる追加記録が期待される。

末筆ながら、文献記録をご教示いただいた中山恒友氏にお礼を申し上げます。

引用文献

- 河野廣道, 1938. 本邦未記録の甲蟲ツヤキカワムシ科に就いて: トドマツ・エゾマツ類の害蟲調査報告第14報. 昆虫, 12(5): 157-160.
平山洋人, 2005. ツヤキカワムシを本州から採集. 月刊むし, (407): 40.

(山田 航 251-0032 藤沢市片瀬2-13-17)

【短報】屋久島のアマミマルカッコウムシ

屋久島で採集されたアマミマルカッコウムシ *Allochotes yuwanensis* Yajima & Nakane の79個体について、体型、色彩、点刻の個体変異を報告する。採集地は屋久島南部の原、中間～栗生林道、花山歩道で、5月～7月のシイやミズキの花すくい、小枝を束ねて木につりさげたトラップにより採集された。採集者は全て向山敬延氏である。

- 図1: 青緑色で丸い体型。61exs.
図2: 青緑色で細長い体型。1ex.
図3: 青紫色で細長い体型。2exs.
図4: 紫色で丸い体型。2exs.
図5: 黒色(所々に青緑色)で丸い体型。11exs.
図6: 青緑色, 細長い体型で上翅が皺状で点刻が大きく見えるもの。1ex.
図7: 青色, 丸い体型で上翅が皺状で点刻が大きく見えるもの。1ex.

体型、色彩、点刻から屋久島産はナガマルカッコウムシと思ったが、前胸背の毛は黄褐色と茶色の毛が混っていたのでアマミマルカッコウムシと同定した(ナガマルカッコウムシの前胸背の毛は黄褐色)。

報告にあたり標本を提供して下さった向山敬延氏、ご教示を頂いた村上広将氏にお礼を申し上げます。

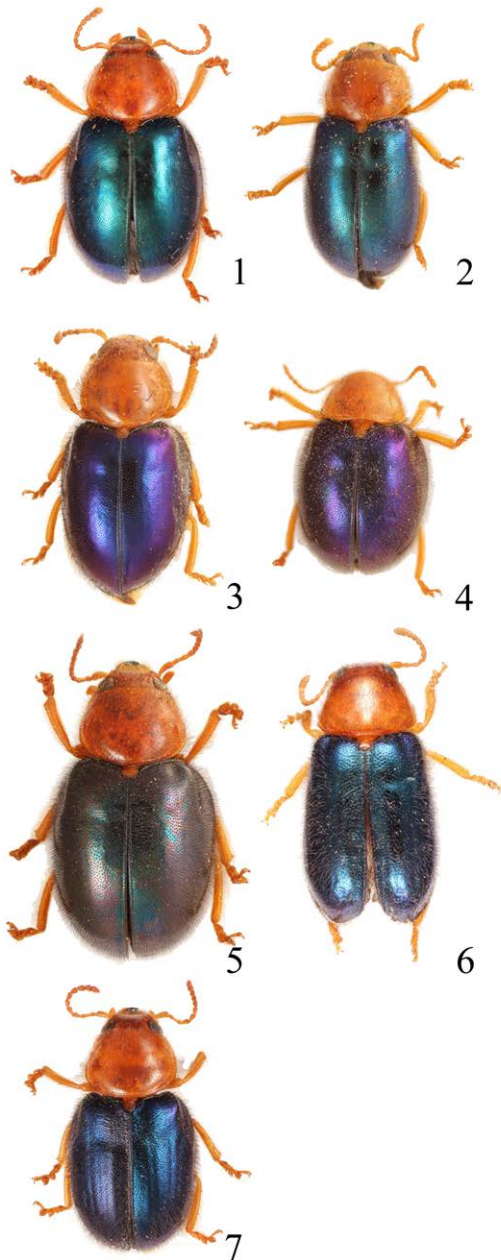


図1-7. 屋久島のアマミマルカッコウムシ. 1, 原, 20. VI. 2007; 2, 中間, 1. VII. 2008; 3, 栗生, 7. VII. 2009; 4, 中間, 7. VII. 2007; 5, 栗生, 17. VII. 2008; 6, 花山歩道, 16. VII. 2001; 7, 栗生, 27 VI. 2009.

引用文献

- 村上広将, 2015. 日本産マルカッコウムシ属 *Allochotes* 概説. さやばねニューシリーズ, (18): 1-5.

(田中 稔 663-8002 西宮市一里山町19-18)